発達理論の学び舎

Back Number: Vol 282

Website:「発達理論の学び舎」

© YOHEI KATO 2020

目次

5621. 今朝方の夢

5622. 日光浴と踊り:音楽空間固有の時間と犯罪心理学

5623. 自己を楽しませることを第一とする作曲:彫刻からの学び

5624. 今朝方の夢

5625. 小鳥たちの美しい鳴き声を聞きながら

5626. 今朝方の夢

5627. 模倣と学習

5628. 宇宙定数と幾何学を活用した作曲:秘教的思想に影響を受けていた種々の作曲家

5629. 今朝方の夢

5630. 散歩を楽しみながら:複数の永住地

5631. いつかオーロラの見える場所で:今日の取り組み

5632. 仮眠中のビジョンと今週末の接心

5633. フローニンゲンのここ最近の天候

5634. 今朝方の夢

5635. 世界規模での精神的なパンデミック

5636. 精神的なパンデミックの背後に:ドイツにある哲学者の博物館

5637. 今朝方の夢:原型モデルとの対話

5638. 外側の世界:コラージュ的作曲の喜び

5639. 満天の星空を眺めながら:ギリシャ旅行の延期

5640. バッハとのつながり:今朝方の夢

© YOHEI KATO 2020

5621. 今朝方の夢

時刻は午前7時を迎えようとしている。ここ最近は6時半ぐらいになると、辺りはすっかり明るくなるようになった。日の出は早くなり、日没は随分と遅くなった。こうしたことからも、新たな季節の近づきを感じる。気候に関しては相変わらず冬のままであり、今の気温はマイナス1度とのことである。幸いにも、昨日の午後にヒーターが直り、室内は暖かい状態が維持されている。

ヒーターが使えることやお湯が使えることの有り難さをしみじみと実感する。普段当たり前に使えていたものが突然使えなくなるという非日常体験によって、日常の中に潜む諸々の尊い事柄に気づく。

今回の世界的なコロナウイルスの拡大の一件に関しても、それは私たちを非日常的な意識にしたはずである。事態が収束をしたとき、これまで見ていた景色とは違った形で社会を捉えることになるだろうか。

小鳥たちの鳴き声を聞きながら、今朝方の夢について少しばかり振り返ってみたい。夢の中で私は、見慣れない建物の中にいた。その建物の外装も内装も白が基調にされており、清潔さがあった。私は建物の中にいただけなのだが、どうもその建物が欧州のどこかの国、しかもそれはイギリスや北欧ではなく、大陸ヨーロッパのどこかの国にあることが直感的にわかった。一方で、建物の中にいたのは日本人ばかりであり、ほとんどが私の友人たちだった。

建物の一階のフロアには美容室があり、そこで私は髪を切ってもらうことにした。日本人の美容師が気さくに私に話しかけながら髪を切り始めると、すぐに散髪が終わった。会計を済ませようとすると、金額が1500円とのことであり、その驚くべきほどの安さに一瞬言葉を失った。「その金額で生計が立てられるのだろうか？」そんな勝手な心配が脳裏をよぎった。

髪を切ってもらった後、さっぱりした気持ちで建物の内を歩いていると、会議室を見つけ、その前を通りかかろうとすると、そこはコンピュータールームのようであり、パソコンと睨めっこしてプログラミングコードを書いている人たちの姿を見た。ちょうどその中に、小中高時代の親友(SI)がいたので、彼に話しかけてみることにした。コンピュータールームに一歩足を踏み入れた瞬間に、私の体は古

城のてっぺんにあった。そこはバルコニーのような形で、人が立つことができる十分なスペースがあった。

私の横には小中学校時代の別の友人がいて、彼は私に自転車の空気入れのような器具を渡してくれた。それはどうやら筋トレに使えるらしく、タイヤに空気を入れるかのようにそれを上下に動かすと、筋肉が刺激され、それによってリラックス効果も得られるようだった。試しにそれをやってみると、その器具に故障が見つかり、友人の彼がすぐさまそれを修理してくれることになった。すると、私の体は再び先ほどのコンピュータールームにあった。

コンピュータールームの隣にも会議室があり、私はそちらの部屋も気になったので、ちょっと覗いてみることにした。すると、中学校時代の理科の先生かつ部活の顧問の先生がそこにいて、ホワイトボードに何かを書いていた。どうやら今先生の授業が行われているらしく、久しぶりに先生の授業を聞いてみようと思った。先生の担当科目は理科のはずなのだが、ホワイトボードに記入されているのは英語であり、しかもよくよく見ると、それは損益計算書や貸借対照表の勘定科目であることがわかり、先生は財務諸表論を講義しているようだった。

先生は黙ったまま、黙々と勘定科目を英語で書き出している。私の横にいた高校時代の友人（HH）が、一つ一つの勘定科目の単語を日本語に訳していき、小さな声で呟いていた。彼の呟きを聞いていると、私は突然鼻水がかみたくなり、近く置いてあったティッシュペーパーの箱からティッシュを一枚取り、大きな音を立てながら鼻水をかんだ。すると、全員私の方を見て、笑顔になった。

私はまだ鼻水がかみたらなかったので、もう一枚ティッシュを取り、再度大きな音を立てながら鼻水をかんだ。鼻水をかんだところで、先生がこれからどのような授業を行うのかが想像できてしまったので、私はもっと面白いことがないかと部屋を後にした。

すると、私の体はそこから突如として消え、2人の外国人の同性愛者の男性が会話をしている姿が目の前に現れた。私の意識は、彼らが仲良く話をしている姿を眺める者としてそこにあった。フローニンゲン：2020/3/14（土）07:22

5622. 日光浴と踊り：音楽空間固有の時間と犯罪心理学

時刻は午後8時を迎えようとしている。今日は1日を通して天気が良く、ここ最近の日記で言及していたように、午後に書斎の窓際で日光浴を楽しんだ。日光浴の際には、音楽を聴きながら少し体を動かしたり、あるいは窓辺で立ったまま読書などをしている。

今週は天気が良い日が続くようなので、日中にはこのようにして適度に日光浴をし、太陽エネルギーを身体に取り入れていきたいと思う。興味深いことに、そうした太陽エネルギーが活動エネルギーに見事に転換されている。

音楽を聴きながら、できるだけ頭を空っぽにして踊りを踊ることを始めてしばらく経つ。踊りを踊った後には思考がクリアになり、諸々の思考活動がとても速やかになる。

スーフィズムの実践技法であるズィクルのように、踊りを活用して特殊な意識状態を作り、その後の前頭前野を活用した活動の橋渡しにしていこう。おそらくは瞑想と同じように、無心で踊ることができてくると、高度な思考力を司る前頭前野を活性化させることにもつながってくるのではないかと思う。明日からは、朝の踊りの時間をもう少し長くしてみよう。いつもはヨガの実践の後に踊りを踊っているのだが、その時間を気持ちもう少し長くしてみたいと思う。

起床直後の適度な運動によって、日中の活動の質が高まっていることはもう何年も実感していることだが、その質をさらに向上させるために、無心になって瞑想的に踊ることをもう少し意識して行ってみたい。

午前中に作曲実践をしているときにふと、音楽空間固有の時間を感じ、その時間の中に浸っている感覚があった。音楽空間上の時間と物理的に身体が存在している時間とは、質的に何かが違うようであることが体験を通してわかる。音楽空間上での思考操作運動を行う過程で、その運動を推進する身体感覚を開発し、音楽空間内に流れる時間をより明確に感じたいと思う。また、音楽空間内に徐々に構築物を建築し、その構築物を特殊な意識状態の中でありありと知覚できるようにしていき、日々構築していく建築物の進捗を眺めていく。

今日も作曲実践に加えて、旺盛に読書を進めていた。今日は、オックスフォード大学出版から出版された音楽心理学に関する論文選集の初読を終え、もう一冊として、社会心理と催眠に関する書籍の初読を終えた。後者に関しては、特に今猛威を奮っているコロナウイルスに対する民衆の反応と関連するような理論が記載されており、随分と食い入るように当該箇所を読み進めていた。集団催眠的な社会現象についてより理解を深めていき、徐々に自分の考えを一連の日記の中で書き留めておこうと思う。

夕方にそのテーマとの関連で書籍を調べたところ、オックスフォード大学出版が、犯罪心理学の応用分野として、企業犯罪や組織犯罪に関する2冊の論文選集を出版していることを知り、来月以降の購入予定文献リストにそれらを加えた。それらを来月購入するかはまだ決めていないが、少なくとも現代精神分析学と組織の精神病理に関する書籍を何冊か購入しようと思う。フローニンゲン：2020/3/14（土）20:11

5623. 自己を楽しませることを第一とする作曲：彫刻からの学び

時刻は午前6時半を迎えた。今朝の起床は午前5時半であり、目覚めと共に小鳥たちの美しい鳴き声が耳にそっと流れ込んできた。今もまだ小鳥たちは鳴き声を上げ続けてくれている。

6時半を迎えてみると、もう辺りは薄明るくなっている。天気予報を確認してみると、ほぼ毎日雨が降っていたこの数ヶ月間の天気が嘘のように、来週は晴れマークだけがずらりと並んでいる。特に来週の初旬は最高気温が10度を超し、暖かい日もあるようだ。一方で、来週末には最低気温が0度やマイナス1度になる日もあるようなので、寒さはまだ続くと思われる。再来週の木曜日からアテネ旅行が始まる。旅に出かける頃のアテネは随分と春の陽気さを感じられるのではないかと思う。

今日もまた作曲実践と読書に打ち込んでいこう。読書に関しては、先週に届いた特殊な意識状態に関する論文選集を読み始める。分量としては600ページほどあるが、集中して読み進めていけば初読は今日中に終わるだろう。

作曲実践については、理論書の譜例を再現し、そこにアレンジをする形で作曲を進めていく方法と、過去の偉大な作曲家の曲から原型モデルを抽出したものに対して曲を作っていく方法の2つを採用していく。後者の場合においては、先日に届いた世界のスケール選集を参考にし、様々なス

ケールを試していきたいと思う。世界の様々なスケールを活用する実践を継続していき、いつか自分なりのスケールを考案してみたいと思う。理論上、スケールの可能性は膨大な数あり、まだ作られていないスケールがありそうなので、自分の気に入るスケールをいつか創造したい。

昨夜の就寝前に、ふとアーノルド･ショーンバーグの言葉が思い出された。ショーンバーグが述べているように、作曲において兎にも角にも重要なのは、まずは自分を楽しませることなのだ。自己を脇に置いて他者を喜ばせようとするような形で曲を作るのは作曲家ではないとショーンバーグは明確に述べていた。もちろん理想は、自分も他者も楽しませるような曲を作っていくことだろうが、そうした理想状態をもたらす必要最低限の条件は、曲を作る過程及び曲そのものが自分を楽しませてくれるかどうかなのだろう。今日からは特にその点を意識する。自分を楽しませ、自分を喜ばせる曲を作るプロセスの中に絶えず身を置いていく。

それともう一つ、今後は彫刻を作曲上の参考にしていこうとも思った。彫刻の造形性と音を通じた造形性には密接な関係がありそうなのだ。空間に形を刻み出していく彫刻と同様に、作曲というのも音で満たされた空間から音を刻み出していくという特徴を持つ。音の掘り出し方、刻み出し方を含め、彫刻からも作曲上の大きな洞察を得ることができるだろう。今後の旅先では、彫刻も意識的に観賞するようにしたいと思う。上記のような観点で、旅先のアテネでは彫刻を積極的に見たいと思う。フローニンゲン：2020/3/15（日）06:54

5624. 今朝方の夢

徐々に開拓されていく無意識の世界。そこから開示されてくる諸々の気づきと発見。

今朝方も印象に残る夢を見ていた。夢の中で私は、学校の体育館のような場所にいた。体育館の壇上にはピアノが置かれていて、これから誰かがピアノの演奏をすることになっているようだった。壇上を見ると、大学時代の友人がそこにいて、彼がこれから演奏をするようだった。彼は大学時代に軽音楽部に所属しており、ギターを演奏できることは知っていたが、ピアノが演奏できるとは知らなかった。自分の周りを見渡すと、知り合いたちの顔がちらほら見られ、どうやら彼らは友人の演奏を楽しみに来ているようだった。

友人の演奏が始まってみると、プロの演奏とは確かに違うが、それでも何一つミスなく演奏をした彼を見て、随分と練習をしたのだろうと想像できた。彼の演奏後、次に壇上に上がったのは小中高時代の女性友達（NI）だった。彼女は幼少期の頃からピアノを習っていて、中学校時代に同じクラスになった時には、クラスで行う合唱コンクールの際にピアノ演奏を担当していたのを覚えている。彼女が壇上に上がり、曲についての解説を行おうとしたところ、自分と同列の左端の席に座っていた男性が突然ドイツ語で何かを話し始めた。

その男性は、どうやら友人の先生のようなのだが、ピアノの先生という雰囲気ではなかった。いずれにせよ、その男性は友人に代わって曲や彼女について紹介をし始めたのである。すると友人は、その先生らしき人の紹介が不十分であると思ったのか、すぐに話に割って入り、修正･補足をし始めた。最初彼女もドイツ語を話していたのだが、観客が日本人だけであることにすぐに気づいたようであり、そこからは日本語に変わった。

自己紹介を終え、演奏が始まろうとする時に、時間が飛び、気づいた時にはもう演奏が終わっていた。周りを見ると、見事な演奏を彼女は行ったようなのだが、私の記憶にはなかった。ふと私は、自分もピアノの演奏を始めてみようかと思った。そこで夢の場面が変わった。

次の夢の場面では、私はオランダとドイツの国境沿いの運河にいた。厳密には、運河をかける橋の前にいた。今から私は歩いて国境を越え、ドイツに足を踏み入れようとしていた。橋の近くにはパスポートコントロールの拠点があり、そこに行ってパスポートを提示しようと思った。

すると、私の後ろから一台の車がやってきて、私の横で止まった。見るとそれはオープンカーであり、そこに2人の男性が乗っていた。運転席に座っていた男性が私に話しかけてきて、それがドイツ語であることにすぐに気づいた。私はどういうわけか、英語で切り返すことをせずに、そのままドイツ語でやり取りをしようと思った。実際のところ、私のドイツ語は大学時代に習った基礎的なものでしかなく、話を理解することも話すこともままならないのだが、なんとなく彼が言っていることがわかったので、そのままドイツ語で話を聞くことにしたのである。

どうやら彼らも国境を越えてドイツに向かいたがっているようであり、パスポートコントロールの場所に預けた、数字が入った鍵を彼らの代わりに取ってきて欲しいとのことだった。私はそれを承諾し、

パスポートコントロールの建物の中に入った。そこでもドイツ語が行き交っており、私は中年の女性係員にドイツ語で話しかけ、彼らが預けた鍵を受け取ろうとした。だが、彼が述べた8桁の数字がうろ覚えになってしまっており、最初と最後の3つの数字は覚えていたが、真ん中の2つの数字に関しては自信がなかった。

しかしながら、最初と最後の3つの数字だけわかれば鍵の特定ができるだろうと思って、その係員が鍵を箱から取り出すのを待っていた。鍵を受け取ってみると、自分の発音があまりよくなかったのか、ちょっと違う数字の鍵を渡されたように思えた。とはいえ、いったんそれを彼らに渡してみて、違うものだったら彼らが直接ここに取りに来ればいいと思った。

運転手の彼に鍵を渡すと、やはり違う鍵のようだった。彼らの鍵を取りに行くことで頭が一杯であり、私は自分のパスポートコントロールを済ませていなかったので、そこで彼とまた一緒に建物に向かった。その道中で、彼はドイツ語から英語に切り替えて話を始めた。どうやら彼らはこれから故郷に帰るようであり、少し急いでいるとのことだった。もう一度建物に入ると、係員たちが次から次に入り口付近にあるトイレに向かっていた。その様子を眺めていると夢の場面が変わった。

最後の夢の場面では、私は大学時代のゼミの友人たちと話をしながら日本のどこかの街を歩いていた。雰囲気から察するにそこは東京ではなく、ゼミ合宿あるいはゼミの同窓会としてどこか地方の県に来ているようだった。

とても落ち着いた田舎道を歩いていると、ゼミの幹事を含め、ゼミのメンバーの何人かが公認会計士の試験に受かったとのことだった。私はそれを聞いて、大変めでたいと思った。それだけではなく、幹事の彼女は赤ちゃんを授かったらしく、2重の意味でめでたいと思った。

すると、河原沿いの上空に数台の戦闘機が現れ、空の上でセレモニーを始めた。色の付いた飛行機雲はとても美しく、数台の戦闘機が集団体操のように見事に動きを一致させて動く様は見事であった。私たちは足を止め、空の上で行われているセレモニーを眺めていた。フローニンゲン：2020/3/15（日）07:22

© YOHEI KATO 2020

5625. 小鳥たちの美しい鳴き声を聞きながら

今朝は午前4時半に起床し、そこからいつもの通りヨガの実践をして、バッハの平均律クラヴィーア曲集に合わせて踊りを少々踊った。起床直後に適度に体を動かすことにより、幸福物質が分泌され、1日の活動に向けての準備が整うのを毎朝感じる。そしてその後、このように日記を執筆することにより、今日という1日をどのように過ごしていくのかを書き留めることによって、1日がより充実したものになっていくことを実感する。充実した1日を積み重ねていくことは、充実した人生を送ることにつながっている。そのようなことを実感する。

今朝も5時を過ぎた頃から小鳥たちが鳴き声を上げ始めた。彼らの声は、恍惚感を誘うほどに美しい。昨日は夕方に、街の中心部のオーガニックスーパーに出かけたのだが、その帰り道にも小鳥たちの鳴き声が聞こえたので、住宅地の真ん中で思わず足を止め、小鳥たちの鳴き声に聞き入っていた。

木々に止まっている小鳥たちの姿を実際に目で見ることができ、小さく丸まった小鳥たちがとても愛らしく見えた。小鳥を含め、他の動植物を見るときはいつも、それらの生物がこの地球上に存在していることの奇跡と尊さを思う。

そういえば、昨日スーパーに足を運んだ時、前回話しかけた店員の女性がいた。昨日は大して購入するものがなく、事前に決めていた品々をサッと取ってレジに向かったところ、その店員が話しかけてくれた。このスーパーを含め、オランダで買い物をするときは、店員と込み入った会話をしないのであればオランダ語で話すようにしているが、前回はその店員と英語で話をしていたため、それを覚えてくれていたのか、彼女の方から英語で話しかけてくれた。

前回話をしていた時には、彼女はギターの演奏を止めて、歴史の勉強をしようかと考えていると述べていたので、どのような分野の歴史を学びたいと思っているのかを聞いてみようと思っていた。ところがその点について聞くことをすっかり忘れており、彼女が新しくピアノの演奏を始めてみようかと思っていると述べたので、その話題で盛り上がった。

オーガニック食材を購入するためにこの店には頻繁に足を運ぶため、彼女の名前を聞いておいた。彼女の名前はメイと言うらしい。年齢はよくわからないが、高校を卒業し、音楽活動をしながら

パートタイムでこのように働いしているように思われるため、随分と年齢は若いのではないかと思われる。いずれにせよ、彼女も新しいことに絶えず挑戦するような人間であり、その点には大変共感するものがある。今度スーパーに足を運び、メイが働いていたら、歴史の勉強について進展があったかを尋ねてみよう。

今日もまた、読書と作曲実践に大いに励みたいと思う。昨日から本格的に理論書を参考にしてコラージュ的に曲を作ることに着手し始めた。手持ちの転調に関する書籍とリハーモナイゼーションに関する書籍を何度か繰り返し参考にしながら曲を作ってきたことがひと段落ついたので、今度はハーモニーに関する理論書を参考にしながら曲を作っていく。それはウォルター･ピストンが執筆したものである。今日も読書と作曲実践の最中は深い呼吸を意識し、学習や実践に最適な意識状態の中で取り組みを進めていこう。フローニンゲン：2020/3/16（月）05:44

5626. 今朝方の夢

小鳥たちの鳴き声に耳を傾けていると、本当に心が安らいでくる。それに深い呼吸を合わせると、もう意識はすっかりと瞑想状態である。

今週のフローニンゲンは、水曜日を除き、晴れが続くとのことであるから何よりである。晴れた日には、ここ最近行っているように日光浴を楽しもう。太陽エネルギーを存分に取り入れて、それを活動エネルギーに転換していく。この調子だと来週も天気が良さそうであることが期待され、アテネ旅行の出発日も天気が良さそうだ。

それでは今朝方の夢について振り返り、その後早朝の作曲実践を始めたい。夢の中で私は、小中学校時代を過ごした社宅にいて、父と母と談笑を楽しんでいた。父が私たちにコーヒーを淹れてくれて、コーヒーを飲みながら話をしようということになった。コーヒーを陶器のコップに注ごうとしている父の姿を見た時に、母が使おうとしているコップがあまりにも大きく、それだと飲み切れずに冷めてしまうのではないかと思い、母には少し小さめのコップを勧めた。

父と母と談笑した後、私は自室に戻り、そこで机の本立てを見ると、まだ使っていないDVD/ブルーレイディスクが立てかけてあることに気づいた。特にそれらを使う予定のなかった私は、父にそれらをあげようと思い、父の部屋に向かっていこうとした。そこで夢の場面が変わった。

次の夢の場面では、私は高校一年生の時に使っていた教室の中にいた。どうやら定期試験が迫っているらしく、試験に向けた勉強を生徒全員で行っていた。英語の読解に関しては、普段から英文を読んでいるために特段対策は必要ないかと思い、社会に関しては、直前の土日に教科書の該当箇所を読めばいいかと思っていた。だが、記憶の性質を考えると、もう少し前から繰り返し教科書を読みたいとも思っていた。

私は特段学校の成績を気にしていなかったので、適当に勉強し、サッと程々の点数を取ろうと考えていた。ただし、数学に関しては比較的本腰を入れて勉強をしようと考えており、2冊の問題集を繰り返し解いておこうと考えていた。なぜだかすでに1冊目の分厚い方の問題集を全て解き終えていて、試験の日まで時間がなかったから、それには少々安心した。

教室で2冊目の薄い問題集に着手し始めようとしたところ、前に座っている小中学校時代から付き合いのある女性友達が私に話しかけてきた。彼女の声は騒々しく、話しかけてきたというよりも、私に対して口論を仕掛けてきているような印象を持った。また、左に座っていた別の女性友達も同様に私に対して騒々しく話しかけてきたので、私はいてもたってもいられなくなり、席を立って教室から出ていこうとした。すると、担任の先生が私に話しかけてきた。

先生:「加藤、どこに行くんだ？」

私:「図書室に行くか、もう帰ろうかと思ってます。騒々しい場所で勉強するのは学習の妨げになりますし、バカに囲まれて勉強するとバカが移ると思われるという2つの理由から図書室に行くか、帰ろうかと思っています」

そのように私は述べて教室を後にした。そこで夢から覚めた。フローニンゲン:2020/3/16(月)
05:59

5627. 模倣と学習

時刻は午後8時半を過ぎたところである。今日は1つの協働プロジェクトが終わりを迎えた。それは昨年より、協働者の有馬充美さんとご一緒させていただいていた10ヶ月ほどのプログラムであり、今

日はその最終回だった。普段は私を除き、リアルな場でプログラムが行われているのだが、最終回の今日は、コロナウイルスの影響もあって、全員がオンラインを通じて顔を合わせた。

これまでもオンラインを通じてゼミナール形式で学習プログラムを提供させていただくことはあったが、今回のように10ヶ月に及ぶものは初めてであり、最終回の今日はとても感慨深いものがあった。最終回での受講者の皆さん一人一人の言葉がとても印象に残っており、この10ヶ月間を通して実現された皆さんの変化には本当に感銘を受ける。

最終回のクラスでは、プログラムの中の要素である発達測定（アセスメント）についてこちらの方で解説をさせていただいた。クラス終了後、発達測定について補足事項をいくつか思いつき、直近2回のインテグラル理論に関するゼミナールで行っていたことと同様に音声ファイルを作ってみたところ、随分と長い時間1人で話をしていたように思う。

最初は、15分程度の音声ファイルを1つだけ作成しようと思っていたのだが、1つの音声ファイルを作ると芋づる式に補足事項を思いつき、結局、60分、31分、45分、54分の3時間を越す分量の音声ファイルを作成していた。そうこうしていると、今の時間を迎え、おそらくこの日記を書き留めた後は就寝準備に入ろうかと思う。グスタフ･レオンハルトがチェンバロで演奏するバッハの平均律クラヴィーア曲集を聞きながら体をほぐすように踊りを踊り、夕食の準備と並行して作っていたベジブロスをタッパーに移す時間を考えると、この日記を書き留めたら就寝に向けた準備をすることになるだろうか。

ここ最近は毎日10曲ほどコンスタントに短い曲を作っていた。それらは全て俳句のような短さの曲である。過去の偉大な芸術家たちは、それぞれ自分の模倣対象を見つけ、愚直に模倣を続ける中で自分の技術を高めてきたのと同じように、明日からもまた模倣を通じた作曲実践をしていこう。

今日は協働プロジェクトの一環である学習プログラムの最終回があり、音声ファイルの作成に3時間ほど時間を充てていたので、結局6曲ほどしか作れなかったが、明日からはまたいつもの通り、様々な仮説を持って実験的な作曲をしていきたい。

毎日バッハの4声のコラールを参考にしているが、バッハのコラールから得られることは本当に多い。今参考にしている楽譜は、ロンドンにある王立音楽アカデミーを訪れた際に、そこの書店で購

入したものだ。店員はアカデミーの学生が務めており、店員の男性が、「とてもいい買い物だ」と述べていたのを覚えている。私は将棋の詰将棋集、あるいは棋譜集を購入するような感覚でそれを購入したのだが、音楽学校の学生からお墨付きをもらって納得の買い物ができたと思ったことを覚えている。

明日もバッハのコラールを参考にしながら、あとはラモーの曲も参考にする。ラモーの楽譜はパリの“Woodbrass”という楽譜専門店で購入したものであり、楽譜を最初に参考にした日が「3/30/2019」と記載されているので、約1年以上前からこの楽譜と付き合い始めたことになる。今、楽譜に掲載されている全ての曲を参考にするところまであと少しであり、明日か明後日には、残った数曲に対して原型モデルを作り、そのモデルをもとに作曲をしていこうと思う。

実は絶えず5人ぐらいの作曲家の楽譜を同時に参考にしており、ラモーの曲を参考にし終えたら、新たに別の作曲家の曲を参考にするよりも、残り4人ぐらいの作曲家に焦点を当てていきたいところだったが、今度はグルジェフとクレメンティの曲を参考にしていこうと思う。後者はソナチネで非常に有名な作曲家だが、なんと前者の神秘思想家のグルジェフも興味深い曲を多数残しており、グルジェフの楽譜もそういえば上記のパリの楽譜専門店で購入していた。明日からも引き続き、ハーモニーの探究ととスケールの実験的適用のためにバッハのコラールを参考にし、近々グルジェフやクレメンティの曲を参考にしていこう。

『良い芸術家は真似をする。偉大な芸術家は盗む』というピカソの言葉を絶えず胸にしまいながら、少なくとも10,000曲ほどは模倣に次ぐ模倣を行っていく。真の意味で盗み、自分の作曲語法を確立するのはその後だ。フローニンゲン：2020/3/16（月）21:02

5628. 宇宙定数と幾何学を活用した作曲：秘教的思想に影響を受けていた種々の作曲家

時刻は午前7時を迎えた。今朝は6時半を過ぎた頃にはもう辺りが随分明るくなっており、この時間帯はとても明るい。幸にも今日もまた晴天のようであり、午後に太陽の光が十分にあれば日光浴をしたいと思う。ここ最近は読書や作曲実践に力を入れていることもあり、日記の執筆量が少し落ち着いているように思える。それでもこのようにして朝に日記を書くことは続けており、夜にも再度日記を書くことを行っている。

時折夜に日記を書くことをしない日もあるが、今後は朝に日記を書く習慣と同様に、夜に日記を書くことも完全なる習慣としてみようかと思う。毎朝日記を書くことによって、「自己充足的予言」を行うかのように、その日1日が充実したものになるという予感の元にその日の活動の予定について書き留めると、本当にその日1日が充実したものになるから不思議である。それと同様に、例えば夕食後に短くていいのでその日の振り返りをし、明日の活動について書くことは、次の日をまた充実したものにしてくれるだろう。今日という日に区切りを付け、明日を楽しみに1日を終えるためにも夜に日記を綴っていこう。

一昨日、音楽理論と宇宙論を架橋した書籍を読む中で、アインシュタインの「宇宙定数（cosmological constant）」という概念に出会い、その定数の値を参考にして曲を作ろうと思った。書籍の中では、その値が「1.053497888425332」と記載されていたのだが、インターネット経由でざっと調べてみたところ、そのような値がすぐに出てこなかった。いずれにせよ、まずはこの数列を用いて曲を作ってみようと思う。

バッハが数秘術を活用したのと同様に、数字を活用した作曲にも関心があり、それに加えて、シューベルトやバルトークが幾何学的な発想から曲を作っていったことにも関心を持っている。つまり、幾何学を作曲に活かすことに関心がある。数学の様々な分野の中で、ここ最近は幾何学を改めて学習したいと思うようになっている。初等幾何学のテキストを何か購入しようかと思ったが、その場ですぐにそれを購入するのは控えた。

数学の学術書を読むよりも、他の分野の学術書を読みたいと思ったからである。また、そうした数学の本格的なテキストを読むことがどれだけ作曲実践につながるのかが未知であったことも購入を控えた理由である。とはいえ、今後も幾何学には関心を持ち続けていこうと思う。とりあえずは黄金比の探究をし、それを曲に活用していく。

昨日は音楽と密教に関する書籍を読んでいた。その中で、ベートーヴェンは、バガヴァッド･ギーターをはじめ、ペルシャやインドの秘教的思想に関心を持っていたことを知った。また、スクリャービンはマダム･ブラヴァツキーやルドルフ･シュタイナーの思想体系に触れ、音と色の認識を見直し、それを深めていったと述べていたことが大変興味深い。スクリャービンは、ピアノソナタ第9番に関して、「自分は魔術を使っている」と告白した。特に、複雑なトライトーンの関係性を活用していたスク

リャービンは、その魔術的な効果に着目をしていたのである。さらには、トリルが持つピッチの曖昧性によって、特殊な心理的効果を生み出していたこともスクリャービンの特徴である。スクリャービンがトリルを活用していたかあまり記憶に残っていないので、実際に楽譜を確かめてみようと思う。そして、実際に該当する曲を聞いてみようと思う。

その他の作曲家についても言及があり、ドビュッシーはタロットカードを活用した曲を作っていたことを知った。ちょうど先日の日記で書き留めたように、フローニンゲンの街の中心部のYantraという店でタロットカードとそれに関する書籍が売られており、タロットカードを使って作曲ができないかを考えていたところだったので、ドビュッシーが先駆的にそのような形で曲を作っていたことを知り、大変興味を持った。この点に関して、ドビュッシーがどのようにタロットカードを活用したのかを探究してみよう。

最後に、現代において魂に響くような曲を書く巨匠が少ないのは、現代社会において秘教的な叡智が忘れ去れてしまっているからかとふと思った。それは完全に忘れ去れてしまっているというよりも、抑圧されていると述べた方が正確かもしれない。音楽の分野のみならず、どの分野においても人間が小粒になっている感が否めず、そうした背後には秘教的な叡智の喪失と抑圧が社会規模で起こっているからなのではないかということを考えていた。フローニンゲン：2020/3/17（火）07:29

5629. 今朝方の夢

今朝も小鳥たちの鳴き声が聞こえてくる。今日は風がほとんどなく、とても穏やかだ。朝日が優しく地上に降り注いでおり、世界が安堵の表情を浮かべているかのようだ。

今朝方もいくつか夢を見ていた。自分の無意識の領域を探り、無意識の世界そのものを育み、拡張させていくために、夢を通じた探究を行っていきたいと思う。

夢の中で私は、現在協働中のある組織の方々とバスケの大会に出場することになっていた。それは3-on-3の形式のものであり、屋外コートで開催される大会だった。参加者たちは全員社会人であるという条件が課された大会でもあった。私は大会会場に向かうために空を飛んでいた。

大会に参加する前に少し野暮用があり、その用事を済ませるのに予定よりも時間がかかってしまい、本来は空を飛んで会場に行く計画はなかったのだが、仕方なくその能力を活用した。夢の中の私は、自分が空を飛べる能力を持っていながらも、極力それを使わないように生きていた。その能力を発揮してしまうと、多くの人たちを驚かせてしまうと思っていたからである。しかし、その大会は私も楽しみにしていたものだったので、なんとか試合開始に間に合いたいという思いから、空を飛ぶ能力を解禁したのである。

宙に浮かび、飛ぶ高さを調節したところで、一気に空を飛んで行った。すると、眼下に海を眺めることができた。そこは湾のような形になっていて、湾と道路の境目には防波堤がずらりと並んでいた。海沿いの車道は入り組んでいて、湾の形に沿って作られたものだと想像できた。海の様子から察すると、そこは日本の中国地方のようだと思った。海に落ちる心配はほとんどなかったが、風の影響で高度が下がってしまうことも考えられたので、少し高度を上げて海上を通り抜けていくことにした。

海を通り過ぎたあたりから街の雰囲気になり始めた。ただ、その街は少し雑多な感じがあった。そして文字通り、ガラクタの山と遭遇し、その上を飛び越えていこうと思ったのだが、そこを飛び越えていくよりも、ガラクタの中にあるポッカリ空いた筒状の空間を通り抜けていこうと思った。するとその空間の奥に扉が見え、私は扉の向こうに吸い込まれていった。扉の向こうには、とても神聖な雰囲気を放っている教会があった。そこには誰もおらず、静寂さと神聖さだけがあった。

教会内の椅子に腰掛けて、少しばかりお祈りをしたい気分になっていたが、バスケの大会のことが脳裏をよぎり、その場を後にすることにした。教会を出てみると、なぜか私の体はもう大会会場のすぐ近くだった。そして、その時はもう空を飛んでおらず、足は地面に着地していた。

地上を走って移動していると、後ろから小型犬が走ってきて、私にじゃれつき始めた。その犬とじゃれ合っている時間がなかったため、最初は無視して走り続けていたのだが、するとその小型犬が人間の言葉を話し始め、私に何かメッセージを伝えようとしていることに気づいた。私はその場で立ち止まり、小型犬の話を聞くと、どうやら会場とは逆の方向に自分が走っているらしいことを知った。また、その小型犬は最後に叡智の詰まった言葉を私に授けた。小型犬に教えてもらった通り、私は反対方向に進んでいたようなので、すぐに逆方向に向かって走り始めた。すると、会場の目印にしていた建物が見えてきて、無事に会場に到着することができた。

© YOHEI KATO 2020

幸にも、まだ試合は始まっておらず、会場まで走っていたことが良いウォーミングアップになったと思った。会場にはすでに協働者の方たちがいて、思い思いにウォーミングアップをしていた。見ると、まだ相手チームは会場に姿を表していないようだった。試合開始の時間が迫ってきてようやく相手チームのメンバーらしき人物が現れた。だがその人は1人であり、よくよく見ると、その人は私の小中学校時代の親友の1人(HS)だった。

彼は中学校時代のバスケ部の仲間であり、今日このような形で対戦できることを嬉しく思った。どうやら彼のチームは、彼だけがバスケの経験者らしく、1回戦は難なく突破できるような予感があった。すると、その場がバスケコートからフットサルコートに変わった。そこでは試合が行われており、試合はとても白熱していた。

どうやら私はその試合に参加することになっていたらしいが、遅刻をしてしまっているようだった。試合そのものは白熱した雰囲気だったが、意外と点差がついていて、残り時間を考えると、こちらのチームは負けてしまうように思えた。残り時間がほとんどなくなったところで私は試合に出場し、試合終了間際に大量得点を奪うことによって、こちらのチームが逆転勝利を収めた。直感的に私は、このチームであれば3回戦ぐらいまでは勝ち上がれるような気がした。フローニンゲン:2020/3/17(火)08:04

5630. 散歩を楽しみながら:複数の永住地

時刻は午後7時半を迎えようとしている。つい先ほど、夕食を摂り終えた。良質な食材を少量いただく日々が続いており、このように適量食物を食べることが心身に良い影響を与えている。そして、その好影響は日増しに強まっていく。

今日もまた1日を通して天気が良かった。午後には書斎の窓辺で日光浴をしながら読書をしていた。そして夕方には、買い物がてら近所の公園を少々散歩した。今日は祝日ではないはずなのだが、公園では楽しそうに遊んでいる親子や学生が多かった。平日の夕方にこのようにしてリラックスして遊びに興じる心と時間の余裕があることは良いことである。そのようなことを思いながら、彼らが楽しそうに遊んでいる姿を眺めていた。

今、フローニンゲンの夜空はエメルラルド色に輝いていて、後少しで日が沈みそうである。今日1日を振り返ってみると、本日もまた充実感と幸福感に満ち溢れていた。それは深い呼吸をするかのようなとても静かな感覚である。呼吸をするのと同じように、充実感と幸福感が自分の存在の奥深くへと日々染み込んでいき、そして内奥からそれが外側へと滲み出してくる。

この地で生活をする日が積み重なっていけばいくほどに、その充実感と幸福感は存在の最奥と同一化し、そこからそれらの感覚が溢れ出してくるようになるだろう。

夕方に散歩から帰ってくる最中、これまで通ったことのない道を歩いていた。すると、不動産屋を発見し、店の窓ガラスに貼られている物件の写真を眺めていた。フローニンゲンの不動産相場はおそらく東京の3分の1ぐらいであり、当然ながら物件によって値段はピンキリであるが、実家のある山口県ぐらいの不動産相場の印象である。今のところオランダを永住拠点の1つとしており、いつかフローニンゲンで居住用の不動産を購入することも選択肢に入れておこうと思う。

南オランダは確かにアムステルダム空港に近くで旅行の際は便利なのだが、今年からの遠距離旅行の際の工夫をすれば、北オランダでも問題なく遠距離の旅行に行けそうだと期待している。そうであればフローニンゲンは今のところ自分にとって最良の街である。永住の地を今決める必要は全くなく、さらに現代において1つの居住地に縛られる必要は全くない。永住する居住地は複数あって良いのである。

それではこれから、作りかけの曲を完成させ、その後にラモーの曲を参考に原型モデルをいくつか作ろう。それが終われば、ハズラット･イナヤット･カーンの書籍の続きを読もう。彼の”The Music of Life: The Inner Nature and Effects of Sound”という書籍は思っていた以上に素晴らしく、音楽に関する自分の思想を深める上で、本書は今後も肥やしになってくれるだろう。初読を終えたら、音楽を聴きながら踊りを踊り、就寝に向けて準備をしたい。明日もまた素晴らしい1日になるだろう。フローニンゲン：2020/3/17（火）19:41

5631. いつかオーロラの見える場所で：今日の取り組み

時刻は午前4時半を迎えようとしている。今朝は、午前3時半前に起床し、その後いつものようにヨガの実践をし、音楽に合わせて踊りを踊った。身体を適度に動かしたことによって、今日1日の活動に

集中して取り組むことができるだろう。夕方には散歩がてら近所のスーパーに買い物に出かけ、そのときにも身体を動かそう。

数日前から昨日にかけては太陽の光を十分に浴びることができたが、今日は1日を通して曇りがちのようである。夜には小雨が降るとのことだ。数日前の天気予報の通り、今週末から来週にかけては晴天続きであり、この分だと来週の木曜日にアテネに向かう時も天気が良さそうだ。アテネの天気はフローニンゲンよりもさらに良好のようなので、旅行中は晴天に恵まれながら滞在を満喫できそうだ。春のアテネの姿がどのようなものなのか、今からとても楽しみである。

目の前にたたずむ闇の世界を眺めながら、そういえば昨夜、今後の居住地について日記に書き留めていたことを思い出した。その後、その点についてぼんやりと引き続き考えており、是非ともオーロラの見える場所に居を構えようと思った。そうなってくると、欧州永住権で居住できる範囲で言えば、やはりフィンランドが第一候補になるだろうか。アイノラのシベリウスの家のように森や湖が近い場所に居を構えるか、フィンランドの沿岸部で海が見える場所に居を構えるか。そのような選択肢がありそうである。宇宙の神秘的な現象の一つであるオーロラを絶えず眺められる場所で生活をしたいという思いを今後も大切にしたい。そうすれば、いつか本当にそのような場所で生活を始める日が来るかもしれない。

今朝の夢の世界は落ち着いており、印象に残る夢を見ていなかった。断片的にさえもあまり覚えておらず、感覚として中立的な何かしらの夢があったことだけは覚えている。目の前に広がる静かな闇の世界と同様に、今朝の自分の無意識の世界はとても落ち着いていた。

それではこれらか早朝の作曲実践に取り掛かりたい。まずは準備運動がてら、世界の様々なスケールが掲載された辞書的な書籍を片手に、バッハのコラールを基にして作った原型モデルを活用して曲を作る。その後、ラモーの曲を参考にして作った原型モデルに対しても同様に、スケールとして試したいものを適用する形で曲を作る。その後の2曲は、理論書に掲載されている譜例を参考に、それに対して自分なりの工夫をし、コラージュ的に2曲ほど作る。4曲ほど作ったら休憩がてら読書をする。その際には、先日届いた“The Future of the Body”という書籍を読む。これは先日の日記で言及していた思い入れのある書籍であり、8年前に論文執筆の際に参照したことがあり、今回は改めて本書を購入して、最初から最後まで読み通すことにした。

ある程度本書を読み進めたら再び作曲実践をし、その後にまた読書を行うといういつものサイクルで今日という1日を過ごしていこう。それと本日は、数日前に終了した「一瞬一生の会」というプログラムに関して、追加の音声ファイルを作成しようと思う。これは今朝起床して思いついたことであり、アセスメント結果の解釈の方法と、今後どのようなことをすればさらなる成長が実現されるのかについて解説した音声ファイルを作ろうと思う。「さらなる自他成長に向けて」というタイトルで、思いつくことをいくつか話していきたい。フローニンゲン:2020/3/18(水)04:44

5632. 仮眠中のビジョンと今週末の接心

時刻は午後7時半を迎えた。今、穏やかに1日が終わりに向かっている。

今日の午後に仮眠を摂っていると、不思議なビジョンを知覚した。それは自分の体が透明な大海の中に浮かんでいるようなビジョンであった。その感覚はとてもまろやかであり、母胎にいるかのような絶対的な安心感があった。その知覚体験は実際に自分が母のお腹の中にいた時の記憶なのだろうか。

大海の中をゆっくりと動く波の動きに合わせて、自分の身体感覚もゆっくりと揺れ動いていた。仮眠から目覚めると、仮眠前とは違うリアリティが目の前に広がっているように思えた。リアリティは文字通り、瞬刻瞬刻変貌を遂げており、変貌の狭間に入り込み、そこから再び新たなリアリティにやって来たがゆえに、仮眠の前後であのように差異を感じたのだろうか。

一昨日に引き続き、今日もまた「一瞬一生の会」に関する音声ファイルを作成していた。主題として「さらなる自他成長」というテーマを設定し、それについて音声ファイルを作成していた。気がつけば、音声ファイルを3つほど作成し、時間にして125分ほど1人で喋り続けていた。それらのファイルは、すでにGoogle Drive上に保存したので、後ほど参加者の皆さんに新たなファイルが追加された旨の連絡をしておこう。今のところ、本日作成した音声ファイルをもって最後のものとする。

来週の木曜からはアテネ旅行が始まる。旅行の前に、今週の土曜日は久しぶりに長時間座禅瞑想をしようと思う。長時間と言っても午後から夜までの4~5時間ほどである。半日ほどの接心といったところだろうか。アテネ旅行の前に座ろうと思ったのは、直感的なものだった。自分の内側がそれを要求していたのである。内側からの促しに応じる形で、土曜日は時間を取って数時間ほど静かに座

る。書斎の床にヨガマットを敷いて、その上で座す。座る前には瞑想の意識状態に入って行きやすくするために、数十分ほど音楽に合わせて無心で踊りを踊ろうと思う。定期的な断食と同じように、これからは定期的に長時間座る日を設けてもいいかもしれない。そのようなことを考えている。フローニンゲン：2020/3/18（水）19:49

5633. フローニンゲンのここ最近の天候

時刻は午前4時を迎えた。外の世界は闇に包まれており、辺りはとても静かだ。風は全くなく、小鳥たちもこの時間帯はまだ鳴き声を上げていない。小鳥たちよりも早く起床して、今このようにして日記を書き綴っている。

ここ最近のフローニンゲンは天気が良くなり、雨が降ることがなくなってきた。そして、太陽の光を拝むことのできる時間が増えてきた。それはとても喜ばしいことである。ちょうど来週の今日、アテネに向けて出発する。出発の日の朝も今日と同じぐらいの時間帯に起床して、いつもと変わらずに日記を書いているだろうか。

毎回の旅行と同じく、搭乗する飛行機の時間は早すぎず遅すぎずといったものであり、今回はアムステルダムの空港を昼過ぎに出発するものに乗ることにした。そうしたこともあり、当日の朝は余裕がある。いつもと同じように、早めに空港に到着して、空港のラウンジでゆっくりしようと思う。

現在、コロナウイルスが世界的に猛威を奮っているが、オランダも例外ではない。イタリア、フランス、ドイツ辺りに感染者が多く出始めており、オランダもその影響を受けている。特にイタリアやフランスに近い南オランダで感染者が増えている。北オランダのフローニンゲンでどれだけ感染者がいるのか不明だが、ここ最近はバスの乗客が少ないように感じるのは気のせいだろうか。また、1階と2階に住んでいる住人が仕事に行かずに自宅に待機しているように思えるのも、コロナウイルスの影響なのだろうか。最初私は、彼らがいつものように働きに出かけないことに対して、オランダの祝日かと思ったが、そうではなかった。そうしたことを考えると、やはりウイルスによる自宅待機命令でも出ているのではないかと推測される。

アテネ旅行に出かける日は晴れのようであり、とても嬉しく思う。今週は雨が降ることがほとんどなく、本当に天気に恵まれていた。今週末も晴れのようであり、日曜日から火曜日にかけては、久しぶり

に雲マークが一切ない晴天マークが付されている。ただし、気温に関しては依然として低く、マイナス1度やマイナス2度の日が何日間かある。もう少しで4月を迎えようとしているところだが、フローニンゲンの気温はやはり例年通りまだ寒い。

今日もまた自分のペースで自らの取り組みを前に進めていこう。読書と作曲実践を起点にして、ライフワークを進めていく。午前中に1件ほど協働プロジェクト関係のオンラインミーティングがあるが、それ以外の時間は全て自分のライフワークに時間を充てることができる。今日の読書に関しては、月初に購入した全ての書籍の初読を終えたので、先日フローニンゲンの街の中心部の書店で購入した哲学辞典を読みたい。それはイラスト付きのフルカラーのものであり、哲学図鑑と述べてもいいかもしれない。文字情報のみならず、ビジュアルイメージを通じて、幾人かの哲学者の生い立ちと彼らの思想を理解したいと思ってその書籍を購入した。本日の読書を通じて得られる事柄、そして本日の作曲実践を通じて得られる事柄を楽しみにしながら活動に従事していく。フローニンゲン：2020/3/19（木）04:27

5634. 今朝方の夢

昨夜の日記で書き留めたように、今週末の土曜日は、久しぶりに接心をしてみようと思う。午後から数時間ぐらいに静かに座し、精神を一度クリアなものにしていく。精神的な浄化のみならず、身体上の浄化も継続して行われていることをここ最近実感する。今朝のような時間帯に起床することができているのも浄化がうまく進んでいることの現れかと思う。

早い時間帯に起床することができるほどに心身の調子が良く、深い睡眠が実現されているのも浄化プロセスの進展によるものだろうか。今週末の接心を終えたらアテネ旅行がやってくる。アテネから買ってきたら、そのタイミングで断食を少々行うかもしれない。今週末の接心と合わせて1日ほどの断食を行う予定であり、アテネ旅行から帰ってきてからの断食はもう少し日を伸ばしてもいいかもしれない。そのあたりは旅から帰ってきてから判断することにする。

今朝方は印象に残る夢を見ていた。夢の中の私は、小中学校時代の2人の友人と一緒に学校から自宅に向かって帰っている最中だった。学校から自宅に向かう途中で一度スーパーに立ち寄り、そこでその日の夕食を購入することになった。最初私は鳥肉の入ったサラダを手に取ったが、私は

ヴィーガンであるため、それを棚に戻し、肉が一切入っていない野菜サラダを手に取った。そのサラダには立派なブロッコリーがいくつか入っており、その他の野菜と合わせて、とても栄養価が高そうに思えた。私はそれを手に取り、バスケ部仲間の友人（SN）が一括して支払いをしてくれるとのことだったので、友人の買い物カゴにそれを入れた。

もう1人の友人（HY）は野球部に所属しており、彼はまだ何を購入するかを迷っているようだった。すると、私たち3人の体はもう店の外にあり、全員何かしらの食べ物を購入し終えたらしく、バスケ部の友人の自転車のカゴに3人が購入した食材が入っていた。

そこから自宅に向けて帰ろうとすると、突然小雨が降り始めた。だがそれは傘をさすほどでもなかったので、私たちは気にせずにそのまま帰ることにした。

野球部に所属している友人がふと、先週末に行われた試合について話をしてくれた。残念ながら1-2という僅差で負けてしまったらしかった。彼曰く、最近チームの精神状態があまり良くないとのことであり、野球の神様はそのあたりをちゃんと見ていると述べていた。彼のその発言が興味深かったので、それについて少し考え事をしていると、気づいた時にはもう彼はその場にいなかった。

バスケ部仲間の友人と私は、そこから2人で自宅に戻っていると、道の途中でまた2人の友人（SI&YU）と出会った。彼らもまたバスケ部に所属しており、そこからは4人で帰ることにした。すると、山道を登っていく道中で、テニス部に所属していた友人（KF）の後ろ姿が見えた。彼はゆっくりと自転車を押しながら山道を登っている。

彼の後ろ姿が見えたので、私たちは彼に話しかけてみた。すると彼は、これから英語の塾に行くとのことであり、実は私たちも一度自宅に戻ってからその塾に行くところだった。その友人は一度家に帰ると塾に行くのが遅れてしまうと述べ、それに対して他の友人たちが賛同し始めた。依然として小雨がパラついており、天気の状態を踏まえると、一度自宅に帰るよりも、そのまま塾に向かう方が賢明だと彼らは判断したようである。だが私は、それでも自宅に一度帰る方が望ましいと思い、明確な理由は彼らに伝えないまま、そこからは1人で自宅に戻ることにした。するとどういうわけか、友人たちは突然怒り始め、1人で帰ろうとする私に対して罵声を浴びせ始めた。私は彼らに関わらないよう

にしようと思い、彼らの罵声を無視しながら自宅に向かって歩き始めた。すると彼らは私の後をつけてきて、後ろからまだ嫌味の混じった言葉を私に投げかけていた。

そこで後ろを振り返ると、また新しく別の友人(SS)がそこにいて、彼もまた私に嫌味の混じった言葉を投げかけていた。このまま彼らのことを無視し続けてもよかったのだが、彼らが言葉を通じて私を非難することが終わりそうになかったので、彼らの方を振り返った私は、まるで居合斬りのような速度でその場にいた全員の友人に蹴りを入れた。真ん中にいた友人に蹴りを入れ、うずくまった友人の脳天にかかと落としを喰らわしたところで夢から覚めた。目を開けた瞬間、寝室の窓の外の暗闇に浮かぶ光が幽霊か地球外生命体のように見えた。フローニンゲン:2020/3/19(木)04:57

5635. 世界規模での精神的なパンデミック

時刻は午後7時半を迎えようとしている。今日も1日が静かに終わりに向かっている。

今朝方の日記で書き留めていたように、ここ数日間は1階と2階の住人が仕事に行かずに自宅に待機している。その理由が本日分かった。彼らはやはり、会社からコロナウイルスによる自宅待機の指令を受けているようだった。ここ数日間やたらとバスが閑散としていることも同じ理由だということがわかった。

先日の日記で書き留めていたように、オランダはヨーロッパ諸国の中でもコロナウイルスの感染者数で上位に入る国である。イタリアやドイツ、そしてスペイン、さらにはイギリスなどが最も感染者が多いが、オランダはそれらの国に続いて以外と上位の方にいる。感染者の数で言えば、日本の約3倍ほどの数であり、人口比でいくと、日本を遥かに凌ぐ感染状況である。来週の木曜日からギリシャ旅行に出かけるのだが、やはり気になってギリシャについても状況を調べてみると、ギリシャは欧州諸国の中でも感染者数は少なく、本日時点においては日本の半分ほどの数である。しかし、ギリシャ政府はかなり厳格な対応をしており、トルコとの国境を封鎖したり、イタリアからの観光客の受け入れなどを拒否しているようだ。オランダにおいて学校や会社が休みになっているのと同じように、ギリシャもそうした措置を取っているらしい。

あいにく、美術館や博物館なども閉まっており、前回調べた時には2週間ほどの閉館とのことだったが、この調子だともっと長引きそうであり、私がアテネに行く際にもそれらの施設は閉館の可能性が

高い。今のところ、オランダからアテネへは入国できるらしく、アテネの街も閑散としているようだが、航空会社やホテルからギリシャへ入国できないという連絡がない限りは、予定通りアテネに行こうと思う。ギリシャはオランダよりも感染者の数が随分と少ないとは言え、オランダでの生活と同様に、人混みは避けたいと思う。また、空港内や公共交通機関を利用する際には必ずマスクを着用したいと思う。アテネで美術館や博物館を見て回ることができなかったとしても、諸々の古代遺跡を眺めに行こうと思う。

一昨日に近所の公園に散歩に行った時、やたらと親子連れや学生が多かったのは、コロナウイルスで学校が休みになり、会社に関してもリモートワーキングになっているからなのだと本日知った。コロナウイルスは本当に世界で猛威を振るっているようだが、よくよく調べてみると、実際のところは毎年比較にならないほどの数の人たちがインフルエンザを罹っており、死者数に関してもコロナウイルスの比ではないことがわかった。おそらく世界中の人たちがインフルエンザの蔓延に慣れてしまっているのか、毎年の感染者の数や死者数についてあまり気にしていないように思える。

そうしたことを考えてみると、今回のウイルスに関してはやはり報道が行き過ぎているように思えてくる。日本の場合で言えば、今回のコロナウイルスよりもインフルエンザで毎年亡くなっている人の数の方が100倍近く多いという事実がある。ちなみに現在時点において、日本でコロナウイルスに感染した数は923人ほどであり、そのうち死亡者は32人とのことである。一方、オランダでコロナウイルスに感染した数は2,460人であり、そのうち死亡者は76人とのことである。実際のところオランダでインフルエンザに罹っている人が今年どれくらいいるのか調べてみたところ、なんと100,000人ほどの数に上るとのことであった。インフルエンザで死亡する人数も日本と同じく毎年3,000人ほどのようだ。

世界的に見てもインフルエンザの方が感染者の数が圧倒的に多く、死亡者の数も多いことを考えてみると、報道やSNSによって各国あまりにも右往左往し過ぎのように思えてしまうのは私だけなのだろうか。コロナウイルスが猛威を振るっているというよりもむしろ、歪んだ情報が猛威を振るい、それによって「精神的なパンデミック（感染症）」に世界中の人々が陥っているように思える。フローニンゲン：2020/3/19（木）19:51

5636. 精神的なパンデミックの背後に:ドイツにある哲学者の博物館

時刻は午前5時半を迎えた。今、小鳥たちが起きてきて、清らかかつ高らかな鳴き声を上げている。

人間界はコロナウイルスで集団的狂気を経験しているが、小鳥たちの世界は依然として落ち着いているようである。このあたり、私たち人間は小鳥たちのあり方から何か学ぶ必要があるのではないかと思わされる。

昨日、コロナウイルスとインフルエンザについて少しばかり調べていると、いくつか見逃すことのできないデータが出てきたことを昨日の日記に書き留めていたように思う。オランダで毎年900,000人ほどの人たちがインフルエンザに感染するということを知り、その数が思っていた以上に多かったために、日本の状況についても調べてみた。すると驚いたことに、日本においては、インフルエンザに感染する人の数が毎年推定で1,000万人ほどになるとのことだった。日本の人口からすると、毎年10人に1人はインフルエンザに感染するということを示唆しており、その数は少し多く見積もられ過ぎではないかと思えるが、いずれにせよ、コロナウイルスと数の面においては桁が違う。昨日の日記で言及したように、不必要に各国の人々が慌てふためいているように思え、ウイルスによる感染症よりも、精神的な感染症の拡大に危惧がある。早く事態が落ち着いて欲しいものだ。

今回の件に関して、仮に情報操作によって世界が大混乱に陥っているとしたら、情報との付き合い方を根本から見直していく必要があるように思う。世界的な大混乱によって株式市場を含め、様々なマーケットが大打撃を受けているようだが、情報操作を仕掛けた側やこうした混乱が起きることを事前に予測していた人間は、空売りなどを通じてしこたま儲けたのではないかと思ってしまう。実際にそうした人間がたくさんいたであろうことは想像に難くない。

小鳥たちの鳴き声が引き続き聞こえてくる。とりわけ朝に聞こえてくる彼らの鳴き声の美しさは格別である。

昨日、2週間ほど前にフローニンゲンの街の中心部の書店で購入した哲学辞典を読み進めていた。その書籍をきっかけにして、またいくつかの博物館に足を運んでみたいと思った。1つは、ハノーファーにあるライプニッツ博物館である。ハノーファーはフローニンゲンから近く、バスでドイツ西部のリアーという街に行き、そこから列車に乗ってブレーメンで乗り換えをすれば比較的早く着け

てしまう。今年の秋までの旅行計画はすでに埋まっているので、来年以降にはドイツの他の都市を含めて色々とドイツを巡ってみようかと思う。その他の博物館に関して言えば、ドイツにはゲーテの博物館が2つほどである。どちらもゲーテが実際に活動した場所にあり、1つはデュッセルドルフの“Goethe-Museum Düsseldorf”というものであり、もう一つはフランクフルトの“Goethe House”というものだ。

今年はフィンランドで前泊してから日本に帰国しようと思っている。来年はフィンランドではなく、フランクフルトに前泊をし、その際にゲーテ博物館に足を運んでみよう。フローニンゲン：2020/3/20（金）06:03

5637. 今朝方の夢：原型モデルとの対話

今、静かに夜が明けようとしている。今日は曇りがちのようだが、それでも雨は降らない。明日からは3日間連続で雲が一切ない快晴マークが付されており、来週の火曜日以降も晴れの日が続くようだ。当初予定していた通り、来週の木曜日からアテネ旅行に出かけるが、その日もオランダは晴れのようだ。アテネに到着した日の現地では雨が降るとの予報が出ているので、いつものように折り畳み傘を忘れずに持参しようと思う。コロナウイルスの影響で、アテネの街も随分と閑散としているようだが、逆に言えば街を歩きやすいかもしれない。

明けて来る早朝の空を眺めながら、今朝方の夢について振り返っている。断片的ではあるが、幾つか印象に残っている夢を見ていた。

夢の中で私は、実際に通っていた高校のバスケコートの上にいた。コート上では、友人たちがバスケを楽しんでいて、私もすぐに混ぜてもらおうと思った。バスケを楽しんでいる友人たちの顔ぶれを見ると、そこには別の高校に進学した小中学校時代の友人たちも何人かいた。また、小中高時代を通じて仲が良く、運動神経が抜群の女性友達（MH）もコート上にいて、女性は彼女ともう1人、小中高時代の友人（HY）の奥さんがいた。

運動神経の良い女性友達は何も遠慮せず、臆することなくバスケを私たちと楽しんでいたが、友人の奥さんは遠慮がちにプレーをしていた。そのような様子を察することができ、友人の奥さんに少し

話しかけてみようかと思った。一言二言ではあったが言葉を交わし、友人の奥さんの気持ちが少し和らいだようだった。

その後、私も少しギアを変えてプレーすることにし、積極的にシュートを打って行った。すると、中学校時代からブランクが随分とあるため、シュートがなかなか決まらず、ゴール下のシュートでさえ外してしまう自分がいた。そこで私は、試合の中で練習をするという感覚で、ゴール下のシュートを打ってはリバウンドを取り、それを再びシュートするということを繰り返していた。これを何回かやっていると、徐々にシュートの感覚が戻ってきて、そこからはシュートが思うように入り始めた。

バスケの試合が終わった後に、コート上で自分の腕を見ると、随分と腕が細くなっているように思え、近くにいた友人と比較をしてみた。彼は元々細身の体質であったが、彼の腕よりも自分の腕の方が細かった。私は、腕の細さについて何か問題がないかを頭の中で考えていた。今朝方はそのような夢を見ていた。その他にも、ヨーロッパの街のどこかを舞台にした夢があったように思う。そこでは、小中学校時代の女性友達の1人（NI）と勉強に関して話をしたように思う。

それでは、今日もこれから早朝の作曲実践に取り掛かる。今日からの作曲実践では、原型モデルを活用して曲を作る際には、一度それを聞き、それを作った作曲家に応答手紙を書くような意識をより強く持つことを心がけたいと思う。

原型モデルを通じて作曲家が語りかけて来る事柄に意識を向け、それを受けて自分の中でどのような共鳴現象が起きているのかに注意を払う。そして、作曲家が語りかけてくれた内容に対して返答していく形で曲を作っていく。こうした原型モデルをもとにした作曲に関しては、おそらく今夜ラモーの曲を参考にしたモデル作りが完了する予定である。ラモーの曲に取り掛かり始めたのは今からちょうど1年前であり、普段様々な作曲家の曲を参考にしているため、一冊の楽譜に収められている曲を全て参考にするのに1年間の時間がかかった。

ここからしばらくは、集中的にバッハの曲を参考にしてみたいという思いが今朝方浮かんだ。バッハの曲を集中的に参考にすることによって、自分なりの作曲語法を確立し、そこを起点にして様々な作曲家の曲に触れていくという流れを作っていこかと思う。また、一度作った原型モデルを繰り返し

使い込んでいくことを通じて、原型モデルが語りかけて来る内容をより深く理解すると共に、多様な実験を試みたいと思う。フローニンゲン：2020/3/20（金）06:28

5638. 外側の世界： コラージュ的作曲の喜び

──現実世界の虚構性を超えていくと、そこには虚構性の現実世界がある──スラヴォイ･ジジェク

時刻は午後8時半を迎えた。今週も終わりを迎え、明日からは週末となる。明日は予定通り、午後から数時間ほど接心を行おうと思う。書斎の床にヨガマットを敷いて、その上に数時間ほど座して心を落ち着かせる。思考空間を清浄化させることが一つの目的であるが、仮に何かしらの知覚体験があったとしてもそれに囚われず、静かに座して時間を過ごす。

午前中にふと、私たちが情報操作されていると感じないのは、情報操作がなかった時代がこれまでなかったし、そうした操作がない状態を経験したことがないからかもしれないと思った。さらに、自分が社会的に構築された歪んだ認識世界に囚われていることを感じられないのは、社会的に構築された虚構の外に一度たりとも出たことがないからなのではないかと思ったのである。

そのようなことを考えていると、来月の初旬に購入するべき書籍のテーマが浮かび上がってきた。来月は、スロベニアの哲学者スラヴォイ･ジジェクの書籍と、アメリカの倫理学者マーサ･ヌスバウムの書籍を購入することにした。彼らの書籍を合計10冊ほど、新たに書籍の購入リストに追加した。もちろん協働プロジェクトなどの社会的関与の質を高めていくためではあるが、それ以外にも、純粋に創作に活かすために哲学を積極的に学んでいるように思う。哲学を学ぶことを通じて、自分の思想や感覚が育まれていくのを実感する。それはゆっくりとした速度だが、着実にそうした進行が水面下でなされている。今後も哲学的な探究を継続させることを通じて、言葉や音を生み出す装置そのものを涵養していこう。

今日も作曲実践に明け暮れる1日であった。明日は接心のために、午後以降は作曲をしないだろうが、夜に原型モデルの制作は行うかもしれない。

今日の午前中に、ハーモニーの理論書に掲載されている譜例を参考に作曲をしていると、コラージュ的な曲を作ることの楽しさに目覚めた。以前からその目覚めはあったが、それをより強く知覚したのである。そこからふと、コラージュ画の大家であるニッサン･インゲル先生と出会ったのは、こうしてコラージュ的な曲を作るためだったのかもしれないと考えた。インゲル先生との縁には、そうした意味があったのだと感じるようになっている。明日以降もまたコラージュ的な曲を作っていこうと思う。その継続的な実践が、コラージュ的な曲を作ることの喜びをさらに増幅させてくれるだろう。フローニンゲン：2020/3/20（金）20:43

5639. 満天の星空を眺めながら：ギリシャ旅行の延期

時刻は午前6時半を迎えようとしている。今、フローニンゲン上空の空はラベンダー色に色付いている。ほのかな紫がかった空は、とても優しくフローニンゲンの街を包んでいる。今朝は雲一つなく、見事な快晴である。今朝の起床は5時半であり、とてもゆったりしていた。

起床してすぐに寝室と書斎の窓を開けると、そこには小鳥たちの鳴き声が響き渡る世界があった。小鳥たちの鳴き声だけがこだまする世界は、聴覚的になんとも言えない美しい世界である。

瞑想的な意識の中で、小鳥たちの鳴き声の響きを味わっていた。

昨夜就寝前に、部屋の電気を全て消して書斎から寝室に向かおうとしていた時、書斎の窓の外を見ると、そこに満天の星空が広がっていた。私は思わず寝室に向かう足を止め、星空をしばらく眺めていた。オランダの夜は、街の明かりがそれほど多くなく、それによって星空が綺麗に見えるのかもしれない。フローニンゲンのように中規模な街であればあるほど、街の明かりは慎ましく、そのおかげで満天の星空を味わうことができる。

フローニンゲンの自宅から星空を眺めるときにいつも気になっている星がある。それはとても強い輝きを放っていて、一際存在感を放っているものがある。あの星の名前はなんというのだろうか。

天気予報を確認すると、今日から1週間は全て晴れマークが付されている。ここ最近まではほぼ毎日雨がどこかのタイミングで降っていたが、それが嘘のように、雨マークどころか曇りマークすらない日がこれから続きそうだ。気温の面に関しては、今日の最低気温はマイナス2度、明日も同様であ

り、明後日はマイナス3度まで下がるため、まだまだ春のそれではないが、雨が降らず、太陽の光を拝める日々がやってきたことは喜ばしい。ここからは日中に日光浴を楽しむことができるだろう。天日干しの椎茸と同様に、太陽の恩恵を授かれることに感謝しよう。

このところ、不穏な雰囲気が世界を覆っているような感覚がある。それは、コロナウイルスの蔓延によってもたらされたものだ。フローニンゲンの街もどこか閑散としていて、いつも以上に人通りが少なく、静けさが増している。静けさが増すことは好ましいのかもしれないが、その原因がコロナウイルスの拡大であることは気がかりである。世界全体を覆うこの不穏な雰囲気が早期に払拭されることを願う。

今回の一件をもってして、さらに探究領域を拡大させていこうと思った。いくつか新しい探究テーマが見つかり、それらに関する書籍をまた来月の初旬に大量注文する。今回もまた50〜60冊ほどの文献リストから20〜30冊ぐらいの書籍を購入することになるだろうか。あるいはそれ以上購入することになるかもしれない。

コロナウイルスの拡大を受けて、昨日ギリシャの航空会社から連絡があった。ギリシャ政府の厳格な措置により、ギリシャに入国することができなくなってしまい、フライトがキャンセルされたという旨の連絡だった。それを受けて、ホテルにも連絡をし、今は宿泊のリスケができないかを確認中である。来週の木曜日に予定していたギリシャ旅行はとりあえず延期とし、フライトに関してはすでにリスケができるという連絡を受けているので、ホテルのリスケが可能であれば、コロナウイルスが落ち着いた頃に改めてギリシャに足を運びたい。

あと1ヶ月後の4月末では状況がまだよくわからないので、とりあえず5月末ぐらいに延期することを考えている。4月はオランダ国内の日帰り旅行でもしようかと計画中であり、その際にはピエト･モンドリアンの美術館に足を運ぼうと思う。フローニンゲン：2020/3/21（土）06:47

5640. バッハとのつながり：今朝方の夢

昨夜就寝前に、バッハの楽譜を眺めていると、バッハの生誕からちょうど300年後に自分が生まれたことを知った。誕生日の日まで考えると、旧暦におけるバッハの生誕からきっかり300年と7ヶ月後

である。数字の切りがよく、3と7という素数を大切にし、今後の作曲でそれらの数字を愛用したいという思いが湧き上がってくる。

昨夜、1年間かけて参考にしてきたラモーの楽譜に収められている曲を全て参考にし終えた。これをもってラモーから一旦離れ、今日からは本格的にバッハの楽譜に取り掛かろうと思う。これまでも4声のコラールはほぼ毎日参考にしていたが、Schirmer's Library社から出版されている650ページほどの楽譜に収められている曲は時々参考にする程度だった。この楽譜には、バッハのピアノ曲が全て収められており、それらを参考に作曲実践を積み重ねていけば、多くの学びを得ることができるだろう。今日から少しずつこの楽譜を参考にしていきたい。

もちろんバッハのみならず、これまでと同様に、並行して何人かの作曲家の作品も参考にしていく。昨夜、楽譜の山からいくつかの楽譜を手に取って眺めていたところ、ロベルト･シューマンの楽譜も大いに参考になると思い、それも参考にしていく。

午前7時を迎えた今、朝日が赤レンガの家々を燦々と照らし始めた。空はスカイブルーで塗られていて、白いカモメが優雅に大空を舞っている。

今日は当初の予定通り、午後から数時間ほど接心を行う。今日の雰囲気から察すると、どこか清らかなエネルギーが辺りに流れているような感じがするので、接心にはうってつけの日だろう。

それでは今朝方の夢を振り返った後に、いつもと同様に早朝の作曲実践に取り掛かりたい。夢の中で私は、日本のどこかの県の旅館にいた。ひょっとすると、それは日本とは違う国の中だったかもしれないが、いずれにせよ、和を感じさせる旅館の中にいたことは確かだ。私はその旅館に友人や知人たちと一緒に宿泊していて、今から広い座敷部屋で談笑をしようということになった。座敷部屋に到着し、そこで友人たちとくつろぎながら話を楽しんでいると、何人かの知人が笑顔で部屋に入ってきた。

私たちは思い思いに話を楽しんでいた。するとあるところで、ちょうど私がアメリカから日本に引き上げ、1年間ほど東京で過ごしていたときに知り合った知人が部屋に入ってきた。見ると、会社の上司と一緒のようであり、彼の上司は私たちよりも数歳ほど年上の女性の方だった。時刻は昼間だったが、みんなアルコール類を飲んでいて、普段酒を飲まない私も、アルコール度数が47%ぐらいの白

い酒を少々飲んでいた。厳密には、それを小さなコップに注いでいただけであり、まだ一口も飲んでいなかった。

知人の上司が場を盛り上げるためか、部屋の中央で自己紹介を始め、自己紹介の最後に一気飲みを披露すると述べた。とは言え、それは学生のノリではなく、少量の酒を乾杯程度に飲み干すというものだった。彼女1人でそれを行わせるのは恐縮だということで、その場にいた全員が手に持っている酒を一気に飲み干そうということになった。私が手に持っている酒はアルコール度数が極めて高いものであり、それを一気に飲み干すことが難しいことは最初からわかっていた。そうしたことから私は、一気に飲み干す振りをして、実際は一口だけ飲んだところでコップから口を離した。

彼女の乾杯の音頭によって場が再び盛り上がったところで夢の場面が変わった。今朝方はその他にも夢を見ていた。それらのいずれもが平穏な内容の夢だったように思う。自分の攻撃性が発露されるようなこともなく、穏やかな海を眺めているような感覚を持つ夢がいくつかあった。フローニンゲン:2020/3/21(土)07:15